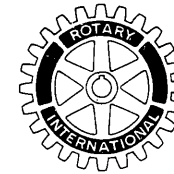


新会員のための ロータリーの歴史



国際ロータリー第253地区
福島南ロータリークラブ

佐藤 侑

ロータリー
文庫

推薦のことば

国際ロータリー第253地区パストガバナー

田 中 善 六

国際通の第一人者であったパストガバナー大原嘗一郎先生の愛弟子、佐藤侑君が長いロータリー人生と尊い体験から、この度「新会員のためのロータリーの歴史」なる新会員にとって又とない、ロータリー習得の手引書ともいべき本を刊行された。この本を一読して、よくこれだけ系統的に然も分り易くロータリーの由来を解き明かしてくれたものだと実は驚嘆している。その意味でも、この本は新会員のためのみならず、多勢のロータリアンにも是非一読をすすめたものである。

ロータリーを語るとき、ロータリーの由来を知らずしてロータリーを語る資格はないと思う。ましてロータリアンになった以上、ロータリーの歴史を知らないのでは、ロータリー人生を楽しめるものには出来ないし、ロータリーが目指す他人への思いやりと助け合いの精神の寄りどころが不鮮明となり、それこそロータリアンよ何処へ行く、昼めしを食いに行くと世の人々から金持の社交クラブと間違われてしまう。

そんな意味から、ロータリーの発生の歴史的背景から説き起こし、ロータリーの思想面での発展の過程でロータリーが

親睦という土台の上に奉仕という家を建てるに至った経過が見事に表現されているし、また国際ロータリーの組織上における変化の概要についても言及し、ロータリーが80年余に亘って連綿として生きて来た原動力が何んであったかを理解するに極めて平易に書かれているので、ささやかな私共の疑問に答えてくれている。更には、日本ロータリー誕生の恩人米山梅吉氏に触れており、日本人のロータリアンにとって、ロータリーの創始者ポールハリスとともに、不滅の人として忘れてはならない人であることを銘記すべきであろう。

この本の最後に、我が253地区ロータリークラブの創立の歴史とも言うべきクラブ創立順位表を添付されていることは、著者の心にくいまでの新会員への温かい思いやりのあらわれであって、地区の歴史を語るときクラブの設立経過の重要な話の糸口を作るものであるし、地域に根ざした奉仕活動の推移を読みとる上で貴重な記録とも言える。すべて佐藤信君の誠実な人柄と、人のために何かを求め、それを成し遂げ、人が喜ぶ姿に感動を覚え、自らも共に喜び合うという人間愛から出発した本書の編集である。

それがためのあらゆる労力を惜しまず、すべての文献の集積から始め、更には恩師大原嘗一郎先生にも時折助言を求めつつ、このような立派にして貴重な「新会員のためのロータリーの歴史」なる冊子が完成したのである。

私も且って、大原嘗一郎先生の薫陶を受けたものの一人として、先生の名代としてここに序文を記すことの巡り合せ、

奇縁を神に感謝するものである。

一人でも多くの新会員ロータリアンは勿論、すでに奉仕の道を只管歩まれているロータリアン諸賢にも、是非座右のロータリー手引書として手元において活用されるよう祈って止まない。

昭和62年6月8日

まえがき

ロータリーを知るには、まずその歴史を知ることが必要であり、そのためにはロータリーの発生史から現在までの体系的勉強をしなければいけないと思われる。第253地区で昭和62年に発刊した「ロータリー談議」の中で、天童クラブの鈴木健先生も“新入会員、または新しいクラブの皆さんは、できるだけ早期に正しいロータリーの本質を、特に初期のことを理解してほしい”と述べておられる。しかし毎日忙しい皆さんが、ロータリーに関するたくさんの資料や文献を読むことはなかなか大変なことと思われる。

先年（1985）第253地区福島県北分区（分区代理板橋廣生）新会員合同研修会において、私は「ロータリーの歴史」について話をしたが、そのとき原稿を校閲されたパストガバナー大原嘗一郎先生（福島 RC、大原総合病院理事長、大原研究所々長）から、新会員のための参考資料としてこれを印刷するようにすすめられたので、その原稿を基に加筆補足してまとめたのがこの小冊子である。その作業中の昭和62年1月26日に大原先生が急逝されたので、最終の御校閲を仰ぐことが出来なかったのが残念であり、そのために食い足りない点が多々あるものと御了承を願いたい。地区の指導者とも呼ばれるべきパストガバナーの大原先生には、30年来野兎病研究のお手伝いをして親しく接することが出来、私の人間形成の上にも、又ロータリアンとしての成長の上にも大変な感化を受け

たことは誠に幸運であった。

この小冊子は新会員のための資料として、ロータリーの歴史の要点を広く浅く編集したものであり、内容はすべて先輩ロータリアンが著した多くの文献の中から抜萃要約して編集したダイジェストである。従って引用の不備や、本旨の取り違い等についてはすべて編集者の責任である。

なおこの小冊子の編集に際し、種々御教示と御校閲を賜りました今は亡きパストガバナー大原嘗一郎先生に感謝するとともに、考証の出どころである文献を巻末に記して著者の方々にも深く感謝の意を表します。さらに極めてご多忙中にも拘らず、推せんのことばを賜りました第253地区パストガバナー田中善六先生に、万腔の敬意と深甚の謝意を表する次第であります。

また、発刊に際し全面的な御協力をいただいた当福島南クラブのメンバー、(株)阿部紙工社長、阿部平三郎君に心からお礼を申し上げます。

昭和62年7月

福島南ロータリークラブ

元会長 佐藤 侑

目 次

I	ロータリーの創設	1	社会奉仕活動が活発になる	11	
	創設の動機	1	社会奉仕について両派對立	12	
	ロータリークラブ創立	2	決議23—34	13	
	例会場の輪番制度	2	社会奉仕の変化	13	
	草創期につくられた一般的な慣例	3	ライオンズ・クラブ	14	
	1) 例会で歌を合唱する慣例	3	国際奉仕	15	
	2) 1業種1会員制	4	III	ロータリーの組織面の発展	17
	3) クラブ内における政治および宗教上の論争の禁止	4	RIの建設者	17	
	4) 会員相互にファーストネームで呼び合う慣例	5	クラブ内の対立	17	
	5) 会務に関する互譲の精神	5	ロータリーの外部拡大と連合組織	18	
	6) 卓話の慣例	5	ロータリーの国際的発展	18	
	7) 出席義務	5	非英語国に発展	19	
	8) 会合の時間厳守	6	世界大戦で多数のクラブが解散	20	
	9) スマイルボックス	6	戦後の発展	20	
	10) 会員名簿に写真を挿入する慣例	6	IV	日本ロータリーの歩み	22
	11) 例会で食事をする慣例	7	日本ロータリーの誕生とその成長	22	
II	ロータリーの思想面の発展	8	米山梅吉について	23	
	会員の相互扶助	8	福島喜三次について	24	
	相互扶助の原則に対する批判	9	ロータリーの日本導入	24	
	奉仕概念の出現	9	東京 RC 誕生	25	
	公式標語とロータリー思想	10	大阪 RC 誕生	27	
			関東大震災によりロータリーを理解する	28	

無地区から第70地区設立	29
「ガバナー月信」発刊	30
日本ロータリーの拡大と創立順位	30
ロータリーの日本化の動きと日本語のロータリーソング発表	32
大連クラブのロータリー宣言	33
地方分権改革案	34
第70地区を3つに分割、連合会をつくることを黙認	35
ついに国際ロータリー離脱	36
国際ロータリー復帰とその条件	38
ロータリーの拡大と新ロータリーソングの発表	39
地区の分割と「ロータリーの友」発行	40
東京国際大会開催（2回）	41
日本からRI会長（2人）	42
日本ロータリーの戦後の発展	43
ロータリー運動とは	43
第253地区ロータリークラブ創立順位	45
引用文献	46

I ロータリーの創設

創設の動機

ロータリーは、1905年（明治38年）2月23日にアメリカ合衆国イリノイ州、シカゴの一青年弁護士であったポール・パーシー・ハリスが始めた運動である。

ではポールはどのような過程で、この運動のアイデアを得たのか、まず彼の生い立ちが、その一つの原因となっている。ポールは1869年4月19日、米国ウィスコンシン州ラシーンに生れたが、3才の時に雑貨商を営んでいた父の倒産によって一家は四散し、彼はバーモンド州ウォーリングフォードに住む祖父母の許に引取られた。彼は此処で敬虔にして質実剛健なキリスト教徒の祖父母、殊に祖母の愛情としつけが彼の人格形成に強い影響を与えたことが、ロータリー運動の根底をなしているといわれる。

もう一つは、ニューイングランドの農村育ちの寄る辺のない一青年弁護士が、マンモス都市シカゴの喧噪の中で生活をしなければならない孤独感である。それが親睦を中核とするロータリー運動の必要性を感じしめる前提条件をなしていた。このような孤独感に苛なまれていたポールにとって、画期的な出来事が起った。それは1900年の夏のある日、彼は友人の弁護士と夕食を共にした後、連れ立って散歩に出たが、その友人は途中で種々の商店を訪ねては、そのの主人と親しく話をし、その都度ポールを紹介してくれた。この時ポールの頭の中に、夫々異った職業の知人を、社交上の友人にすることが出来ないだろう

か？、更にその人達を結合した親睦団体を作ったらどうか？という一つの漠然としたアイデアが浮かんだのである。

ロータリークラブの創立

この考え方を5年間頭の中で温めた末、ついに1905年2月23日に、シカゴのディアボーン街、ユニティビルの711号室にあった、ポールの友人で鉱山技師のガスタヴアス・ローアの事務所で、ガスのほか、石炭商のシルヴェスター・シールと洋反物商ハイラム・ショーレイに打ちあけたのである。これらの親友たちを前に、ポールは熱心にクラブの必要性を説き、さらに2週間後の3月9日に第2回目の会合を開くこと、会員数を増強することを約して、彼ら4人は、いわば創立準備会を終え解散したのであるが、この日が現在ロータリーの創立記念日となっており、この4人を後に、クラブ創立会員チャーター・メンバーと区別し、オリジナル・メンバーと言っている。

例会場の輪番制度

その後、印刷業のハリー・ラグルスと不動産業のウィリアム・ジェンセンが入会した。3月9日にこれら6人がポールの法律事務所に集まって第2回目の会合を開き、このクラブの目的が会員の理解にあるところから、会合は各会員の職場持ち廻りで開くこと、更に会員の勧誘を行うべきことを申し合わせた。そしてイーウェン、ホホワイト、ニュートンらが推薦されて新たに加わった。

3月27日、シルヴェスター・シールの、石炭置場で開かれた第3回目の会合で、クラブ名もシカゴ・ロータリークラブと正式に決定され、

初代クラブ役員として会長シルヴェスター・シール、幹事ウィリアム・ジェンセン、会計ハリー・ラグルスが就任した。これが世界中で最初のシカゴ・ロータリークラブの創立であり、この日をロータリーの創立記念日にすべきであると論ずる人もある。その後、第4回4月6日、ハイラム・ショーレイの店。第5回4月20日、ウィリアム・ジェンセンの事務所。第6回5月4日、ハリー・ラグルスの印刷工場。第7回5月18日、アル・ホホワイトのオルガン工場の予定であったが中止してホテルへ(後述、食事付となる)。会員の職場で開く例会場の輪番制度はここで終止符が打たれた。

草創期につくられた一般的な慣例

シカゴ・ロータリークラブの初期の活動に参加した大多数の者は、農村出の中堅企業の経営者であり、財力に乏しくとも、倫理的に正しい道を歩もうとする、いわゆる平均的な一市井人であった。草創期のことであるから人々は皆ロータリークラブのためにそれぞれアイデアを持ち寄った。ポール・ハリスは会員の助言に耳を傾け、良い提案はどしどし採り入れるという柔軟な態度をとったため、ロータリークラブは、ますます盛んになって行った。今日われわれが日常行っているロータリーの慣例は、そのほとんどが草創期のシカゴ・ロータリークラブの会員が考え出したものである。そのうちの幾つかを述べる。

1) 例会で歌を合唱する慣例

この慣例は創立会員ハリー・ラグルスの提案である。1905年の秋、クラブが一瞬気まづい雰囲気になったとき、彼は「諸君、歌おうじゃないか」とやり、クラブが非常になごやかになった。ラグルスは、不

断は無口で、頑固者で、貧乏なこの印刷屋が入会したときは、親睦という活動には不資格者ではないかと疑われたのであるが、この提案によって彼は不朽の名声を博し、輝かしい伝統をロータリーに加えることになったのである。今日ロータリーソングとして公式に歌曲集に収められているものには144曲があるが、この中でロータリー独自の歌曲は46曲にすぎず、大部分は各国、特に英米の古い曲に、ロータリーに合った歌詞をつけたものである。したがって和気あいあいたる雰囲気盛り上げる歌曲なら、なんでも良いということになるのではないでしょう。

2) 1業種1会員制

これは細かい事情は正確には伝わっておらず、おそらく同じ職業からなる何人かの会員が、職業上の紛争をクラブの親睦の場に持ち込んだのではないのでしょうか。法律家であるポールは、クラブ活動の中から、すこしでも紛争の種を持ち込むような要素を出来るだけ排除するためには、一つの職業から1名の会員しか入会を許可しなければよいことに彼は気がついた。このようにして今日ロータリーの大原則のように考えられている1業1会員制が生れたのである。しかし、その後この1業種1会員制は緩和されて、現在は内部拡大のためアディショナル、シニアアクティブ、パストサービスなどが追加されており、現実には1業種4会員制とさえ言うことができる。

3) クラブ内における政治および宗教上の論争の禁止

ロータリーは本来、社会的に意義を認められた職業に従事する者なら、誰でも積極的に参加できるのであるから、その人の政治理念や、宗教的信条の如何を問うものではない。大会社の社長も、豆腐屋の親

父さんも、また神父さんもユダヤ教も、僧侶も神官もみな会員となる事が出来るのである。このことはロータリークラブのその後の発展を非常に容易にしたのである。

4) 会員相互にファーストネームで呼び合う慣例

これは欧米諸国では定着しているが、日本には親しまれず、わが国では全く行われていない。

5) 会務に関する互譲の精神

役員に選ばれることが名誉なことであるとすれば、会員の名誉欲をそそることになりかけない。この悲しい人間の本性に挑戦し、役員は1年交代、健康上の理由以外は断われない、というロータリー独得の役員構成がロータリーに新鮮な空気を送り込み、これがロータリーの発展に大きく寄与している。

6) 卓話の慣例

この当時のロータリー運動の中心は、なんといっても会員相互間の互惠主義、すなわち職業上の相互扶助にあったのである。彼らは2週間に1回、定例の会合を開き、そして職業上のいろいろな問題を話し合い、これに対する協議と助言が与えられた。そして毎回取引高の報告まで行うようになったのであるが、これが例会におけるテーブルスピーチ（ロータリー用語で卓話と呼ばれている）の慣例となったのである。これは会員相互の職業上の情報の交換という重要な意味を今日でも持っており、クラブ例会がClearing houseクリアリングハウス（手形交換所）と言われているのも宣べなるかなである。

7) 出席義務

彼らは出席をクラブ活動の根本的義務と考え、4回連続して例会出

席を怠ると会員資格を失うべき旨を申し合わせている。これは今日の世界共通のクラブの原則となっている。しかし、これも今ではメーキャップという緩和規定が生まれ、さらに長期にわたる健康不良又は傷害の場合は出席が免除され、また会員歴20年以上65才、15年以上70才に達した会員は、出席規定の適用を免除されたい旨を希望すれば出席規定の適用が免除される等々の救済策がとられていることは皆様ご承知の通りである。

8) 会合の時間厳守

ロータリアンは互いに忙しい身であるから、その会合は定刻に行う。この点はアメリカ人気質としてはむしろ当然のことであるが、これが時間に非常にルーズな日本では大変な特色となり、日本人ロータリアンの時間厳守は、日本社会における顕著な事実となり、ロータリアンの信用を高める一つの原因となっている。

9) スマイルボックス

これは早い時期、すなわち1905年、第3回目の例会の時、欠席者には50セントの罰金を課する規定が採用された罰金箱がはじまりである。ロータリーが日本に生まれてからもしばらくは同じ罰金箱 (Fine Box) と呼んでいたが、1936年 (昭11) 大阪RCが「佛頂面で金を出すような名称は面白くない。ニコニコ箱と改称すべきではないか」と提案し、それからわが国では「ニコニコ箱」すなわちSmile Boxと呼ぶようになったと言われている。

10) 会員名簿に写真を挿入する慣例

これはわが国では、5周年とか10周年とかの記念誌には写真をのせるが、毎年の活動計画書の会員名簿欄には、大半のクラブで写真はの

せていないようである。

11) 例会で食事をする慣例

1905年の5月、第6回目の例会の際に、チャールズ・A・ニュートンが遅れて入ってきた。他の会員が理由をきいたところ、彼は昼食に時間がかかったと言ひわけをした。次の第7回例会の順番に当たっていたアル・ホワイトは、次の例会はホテルにしよう と提案した。この時が食事付例会の最初であるが、一度食事を共にしたら、人々は互いに気分が解放的になって、親睦の実が大いにあがったのである。その後各クラブもこの慣例を継承するようになり、現在に至っている。従ってROTARYの語源となった各人の職場巡りの例会は、第7回例会からは食事付、ホテルの例会となった。

ともあれ、このようにみえてくると、今日の世界中のロータリークラブの慣例のほとんどは、シカゴ・ロータリークラブの会員たちの独創であることがわかる。このようにロータリーは発足以来、系統発生的には大いに進化してきたが、日常行っている慣例は、昔のままの姿を継承していると考えることが出来、誠に興味深いものがある。

II ロータリーの思想面の発展

会員の相互扶助

親睦団体として生れながら、ロータリー運動ほど短期間に、実に多角的な発展を遂げたクラブ制度は少なく、その原因がどこにあるかは今日でも必ずしも明らかでない。ポール・ハリスも当時を回顧して「田舎出の若い事業家が私の招きに応じて集まって来て、馴れない都会生活の中で、互いに真の友人となって助け合おうと誓ったに過ぎなかった。決して劇的な、また奇跡的な始まりではなかった。私達は淋しかったので、その淋しさを癒やす方法を見つけただけであった」という。では親睦団体として生まれたシカゴ・ロータリークラブの目的が、なぜ会員相互の職業上の相互扶助にあったのか、その背景について述べる。

ロータリーが出来た頃のシカゴは狂暴な犯罪の街であった。米国の文化はその建国の歴史をみても東部にはじまり、西部へと移って行った。当時のシカゴはアメリカ移民が東部から西部へ流れ込む中継都市で、移民の質の低さからくる種々の社会問題に加えて、資本主義的事業のあり方も私利私欲中心で、顧客の立場を考える、などということではなく、シカゴはまさに悪徳と腐敗の街と化し、そこに住む人々は互いに食うか、食われるかで仇敵のように戦っていたのである。(ちなみに、当時のシカゴはカポネが暴れるなど物情騒然としていた。などという話や、或はそのように書かれた文献を読まれた方もあるでしょう。しかしこれは当時の状況を説明するための表現で、カポネが、シカゴに来て酒の密売をはじめたのは1920年、すなわち東京RCが誕生した年

であり、シカゴRCはそれより15年も前の、1905年創立であるから、この話は歴史としては事実と異なる。)

この時に当って、彼ら一握りのロータリアン達は一体何をしようとしたのか、経営者といっても大部分は小規模な企業の経営者である彼らは、親睦の場である例会場に、企業上の諸問題を持ち込み、衆知を集めてその改善策を練り、会員の相互扶助によって俗悪な資本家との競争に打ち勝とうとしたのである。

相互扶助の原則に対する批判

このような会員の相互扶助の原則に対しては、会員の中にも批判がないわけではなかった。そんな折、2代目の会長をやったアル・ホワイトから入会をすすめられた弁護士のドナルド・カーターという者が、「この原理は所詮は会員の、そしてロータリークラブのエゴイズムではないか」と痛烈に批判して入会を断わるという出来事があった。これを聞いたポール・ハリスは、われわれは反省しよう、として「シカゴの市民に、シカゴ市に対する忠誠の念を植えつけること」という条項を定款第3条につけ加えた。そしてシカゴクラブは率先して社会に貢献するものである事を示すため1907年、シカゴ市内に公衆便所を設置する運動を起し、これを成功させた。

奉仕概念の出現

このような状況のなかで、1908年にアーサー・フレデリック・シェルドンというロータリー運動の思想的発展にまことに好都合な人物がシカゴ・ロータリークラブに入会してきた。シェルドンはミシガン大

学商学部卒で専門は経営学である。彼はクラブ内外での活動を眺めて、ロータリーの根底にはサービスということが一般概念として存在することを発見した。例えば従来の相互扶助は会員の職業上の奉仕活動であり、彼はこれを「職業奉仕」と名づけた。また会長がクラブの管理運営に当たり、他の者がこれを補佐して親睦の場である例会が和やかにいくよう働らくことは、クラブのための会員の奉仕活動であり、これが「クラブ奉仕」という名でまとめられた。さらにシカゴ・ロータリークラブが行った公衆便所設置活動のようなものを「社会奉仕」と名づけた。このように、シェルドンによってロータリークラブは「奉仕」を目標としてかかげるクラブであることが明らかにされたが、1908年から1910年頃までにかけては、その奉仕の場は「職業奉仕」に重点がおかれていたこと、並びに、ロータリークラブの本質として、それが職業奉仕団体であるという事実は決して今日も失われていない、という事を理解しなければならない。ロータリーは単なる社会奉仕団体ではないのである。ここが後に誕生したライオンズクラブと本質的な考え方の違いであることも注意すべきである。

公式標語とロータリー思想

こうしてシェルドンは、一般的奉仕という概念をまとめたあとで、これを「奉仕に徹する者に最大の利益あり」He Profits Most Who Serves best.という一つの標語につづめた。一方ミネアポリス・ロータリークラブの初代会長フランク・コリンズがいま一つの標語を生み出した。「奉仕だ、自己ではない」Service Not Selfと呼んだが、後にこれを「自己を超越した奉仕」Service Above Selfと改めた。この2つ

の標語は1911年にオレゴン州のポートランドで開かれた第2回全米大会で非公式の標語として採択され、それから39年後の1950年のデトロイト大会で、ロータリーの公式標語として議決された。このように、ロータリー思想は着々と理論的に探究されていったが、1915年には職業上の倫理基準が判定された。これは我が国では職業倫理訓、又は道德律と呼ばれ、職業奉仕の指導理念として尊重されていたが、1980年の規定審議会でこの条項は国際ロータリー細則から削除された。

いま一つは、1915年にフィラデルフィアの会員ガイ・ガンテカーによる「ロータリー通解」の出版である。この本はそれまでのロータリー思想を集大成したもので、ロータリー運動の理論を一般に普及させるのに大いに役立った。その中には「ロータリークラブは電流の流れている電線のようなもので、電気が通ったり通らなかつたりするようでは役に立たない。」或は「出席義務を果たす確固たる保障のない者は会員になるぬ方がよい」などと述べられている。

社会奉仕活動が活発になる

はじめ会員の職業上の「相互扶助」を目的として出発したロータリークラブは、ついにその実践活動の中心概念として「奉仕一般」という理念に到達し、奉仕と名づけられる活動ならば何でもこれを実践しようということになった。そしてロータリアンの中には、職業奉仕の実践によって得た利潤の一部をもって、地域社会のために使用すべきである。という意見が現われていた。1908年のある寒い日、シカゴクラブのある会員と新聞少年の物語りが青少年奉仕概念の発端となり、その後、身障児童に対する問題は、ロータリーに於て多くの関心を持

つようになって行った。

1915年の或る日、オハイオ州、トレードRCの会員が、路上で身体不自由児が歩行困難な身体で一生懸命にペダルを踏んでいるのを見かけた。この児童は学校にも行けないので文字を読むことが出来なかった。彼はこの事実をクラブに語り、クラブの財源をもって身体不自由児を収容し、教育する学校の設立に成功した。これが導火線となって、この種の運動が各地のロータリークラブで着手され、全米に身障児協会等の団体が続々と設立されたが、それらのリーダー、または強力な支援者はすべてロータリアンであった。

社会奉仕について両派对立

このようにして各クラブが社会奉仕活動に積極的に乗り出そうとしたとき、理論派（職業奉仕派）のロータリアン達はこれを厳しく批判した。すなわち、ロータリーは本来職業奉仕のための団体である。したがって各会員の職業上の問題にのみ力を注ぐべきで、社会奉仕に関しては、これに特別の関心がある個人として行うべきで、クラブの活動として行うのは本来の趣旨に反する。またロータリーは1業1会員制である。こうした団体が、団体として社会奉仕活動を行っても実効が期待出来ないというものである。

これに対して実行派（社会奉仕派）のクラブは、すでにクラブ活動として種々の社会問題の解決に実績をあげており、これがロータリーの本質であると信じ、ロータリーは単に会員相互の協力にとどまらず、総力を結集し、クラブ全体の活動として社会奉仕を行った方がより効果的である。と確信していた。このように両派の間に次第に論争対立

が深まってきた。この争いは誠に激烈を極め、一時はロータリー分裂の危機をさえ招くことに到った。（この論争の最中、1917年に団体的社会奉仕を目的とするライオンズ・クラブが分派的に誕生した。後述。）

決議23—34

この2つの意見の対立を解消させ、ロータリーを大同団結させたのが1923年のセント・ルイス大会での一大決議である。その内容は、1. 奉仕の哲学。2. 奉仕を实践する会員の団体がクラブである。3. RIの存在目的。4. クラブの団体行動のあり方。5. RIはクラブの社会奉仕活動を命じたり、禁じたりすることは絶対にしてはならない。6. 社会奉仕活動の指針。以上であるがその趣旨は、各ロータリークラブは奉仕活動を行うに当っては完全な自主独立性を有すること。集団的に行うクラブの社会奉仕は、個人奉仕の実習として意義がある。というものである。これに基いてロータリー・クラブは会員個人として社会奉仕を行ってもよく、また、団体行動としてこれを行ってもよいという事が確立された。これが有名な社会奉仕に関する決議23—34であり、それ以来われわれが社会奉仕活動の金科玉条としてきたものである。

社会奉仕の変化

以上、2派の争いの経緯及び解決策は、現代のロータリアンにとっても多大の示唆を与えるものである。それは、この2つの思考の相違は現代にまで尾を引いており、「決議」は将来その存続が危ぶまれている。次にその推移について述べる。

ロータリーは決議23—34によって、社会奉仕の指針が示されてからも、奉仕の方向について右往左往したが、だんだん個人奉仕から、集団的な国際奉仕へと移行してきた。これについて不満を表わした世界中のロータリアンの草の根運動の対策として、1963年RI理事会は、ロータリーの基本的特色と基本方針を公表した。1966年社会奉仕計画でRIにライブラリーが設けられ、この鉄則が破られた。1974年RI理事会は、国際的レベルにおけるロータリーの共同事業に関し、「RIが特定事業を主催し、各RCに協力させるのは目的の範囲外である」と、明確に決議23—34の精神を堅持する決定をした。にもかかわらず1978年RI理事会は前記「 」内の部分を削除して3Hプログラムを実施した。そして「決議23—34」の規定を無視するようなプロジェクトが目立つという異論が起ったので、RIは1984年版手続要覧から「決議23—34」の本文を削除し、さらにこの決議を廃止する事を前提とした社会奉仕に関する新方針を1986年の規定審議会に提出した。しかし日本を中心とした各国の反対があり、RIの理事会自身がこの提案を取り下げたので「決議23—34」は一応存続が決定し、1986年版に決議の本文は復刻された。理想と現実、理論と実行。それらの対立と統合は我々の今日の課題である。

ライオンズ・クラブ

ここで簡単にライオンズについて触れておく。それは前述の如くライオンズが奉仕論争の最中に生まれたからである。ライオンズ創立の主導者メルビン・ジョーンズはあるロータリークラブの幹事をつとめたことがある。彼は「各業界で成功した200人も会員がおりながら、

食事や商売の話ばかりに熱中している。そんなことより、社会の向上に役立つ有意義なクラブに進化させる事は出来ないだろうか？」という疑問を抱きはじめ、ロータリークラブの社会奉仕の生温いのに業をにやした彼は、1916年各地の同志に社会奉仕を主体とするクラブの結成を呼びかけ、1917年にライオンズ・クラブが創立された。その必携には「ライオンズは単なる社交クラブではなく、会合をする慈善団体でもない、会員の力を結集して種々のアクティビティを行う社会奉仕団体である」と明記されている。ではロータリー(R)とライオンズ(L)との違いを見ると、1)目的の順序が逆、道徳的水準の高揚がRでは2番目にあるが、Lでは最後の6番目になっている。2)RはI Serve、LはWe Serve。3)Rは友愛、職業奉仕が基礎、Lは最初から団体社会奉仕が目的。4)Rは質実で思索的、Lは社会奉仕という単一の目的があり明快である。しかしこの両者は友好的な協調関係にあって、それぞれの立場で奉仕活動を行っているので、このような両者の基礎理論をよく調べて、自分の好きな方に所属すればよいのである。

国際奉仕

1914年、第一次世界大戦で避難民救済や、傷病兵慰問などの事業をロータリーが手がけることになり、ここに国際奉仕の新分野が開かれた。1922年の標準クラブ定款の中に「国際奉仕」が明確に規定されたのである。

この国際奉仕の分野で目ざましい活動をしているのが、1917年に設置の「ロータリー財団」である。これは当時のRI会長アーチ・クラムプの提唱によるもので、ミズーリ州、カンサス・シティRCが26ドル50

セントの最初の献金をしたことに始まる。これが1931年にRIから切り離して、独立した機関である現在のロータリー財団となったが、ポールが1947年に死去するとともに、彼の死を悼み、世界中のロータリアンは、この財団事業、青少年に対する奉仕に大きい関心が寄せられ、現在米国にある2万余の財団中、年間支給額15位という大きい力を持つ財団となった訳である。

以上、ロータリークラブは歴史的な観点からみると、はじめ会員相互の互惠主義を目的として結成されたもので、まず「職業奉仕」から始まり、それが「社会奉仕」と「国際奉仕」を生み、それにクラブを管理運営する「クラブ奉仕」の四大奉仕部門が、現在のように存在することになったのであるが、いずれの奉仕にせよ、ロータリーは極めて個人の奉仕活動を重視するとともに、団体としての奉仕活動をも、両々相まって行われる団体であるということがはっきりした事と思われる。

III ロータリーの組織面の発展

RIの建設者

ロータリーの発展に偉大な貢献をしているのがチェスレイ・R・ペリーである。ポールは常に「もし私をRIの設計者と呼ぶなら、チェスはRIの建設者と呼ぶべきだ。」と言っている。彼は1908年1月、ロータリーの思想面の発展につくしたアーサー・F・シェルドンとともにシカゴRCに入会しているが、この2人はロータリーに入会する以前からの知り合いであり、それが一緒に入会して、ロータリーの思想と組織との夫々に活躍している事は興味深く、ポールも「ロータリーが発足して間もない頃、天の佑を得たという事実を経験した。それはこの運動に不滅の足跡を残した2人が、シカゴクラブに入会したことである」と追憶している。チェスは天性事務処理と組織化の能力にすぐれ、1910年から1942年、70才で退任するまで32年間にわたり国際ロータリーの幹事、事務総長をつとめた。後年ポールは「国際ロータリーの今日あるはチェスの存在なくしては考えられない、とも述懐している。

クラブ内の対立

シカゴRCの草創期、すなわちチェスとシェルドンが入会して間もなく、クラブ内に親睦派と奉仕派の対立があった事は興味ある事実である。1908年シェルドンがシカゴクラブに入会するや、ポールは彼を広報拡大委員会の初代委員長に任命した。彼はロータリーの宣伝と拡大のために大活躍したが、彼の余りの熱心さがクラブ会員の反感を買

い、任期の途中で辞任する破目になった。この事件で彼を推薦したポールは、健康を理由に会長の座を去るという不測の事態さえ生じている。辞任したポールの後任には親睦派のラグルスが選ばれ、シェルドンの後任にはチェスが選ばれた。ここにチェスはロータリーの舞台に脚光を浴びて登場するのである。はじめ親睦派の推薦で登場したチェスが、その後シェルドンが主張する奉仕派の考え方を辿っていることは興味がある。このようにシカゴRCは当時親睦派と奉仕派に分裂して昏迷が続き、クラブの会長選挙なども激烈をきわめる有様であった。

ロータリーの外部拡大と連合組織

チェスはこのクラブ内の対立という難関を突破するため、ロータリークラブをシカゴ以外にも設立し、人々の関心をこれに向けようとする政策をとったのである。そして彼は新しくクラブを創立するときにはシカゴクラブの承認を得ることとした。(この方式がその後全米ロータリークラブ連合会、国際ロータリーに引継がれている) この方針にしたがって1908年サンフランシスコRC、次いで1909年オークランド、シャトル、ロスアンゼルス、ニューヨークおよびボストンRCなどが設立された。チェスはこれら多数のクラブを一般的に管理するため、1910年全米各地に設立された16のクラブを集合して「全米ロータリークラブ連合会」の結成に成功し、初代会長にポール・ハリスを推戴し、チェス・ペリーは初代幹事に就任した。

ロータリーの国際的發展

シカゴクラブはロータリー運動を国際的なものにして積極

的に運動をつづけ、ついに1910年10月カナダのウイニベックRCが初めて外国のクラブとして結成された。翌1911年にはサンフランシスコRCの会員が大西洋を越えた故郷のダブリンにロータリー・クラブを創立し、さらにベルファースト、グラスゴー、エジンバラ、リヴァプールおよびバーミンガムの各地にもクラブを創立した。このことはシカゴクラブが1911年にロンドンRCを創立したとき始めて知ったのである。このようにして全米ロータリークラブ連合会はついに国際的とならざるを得ないことになり、1912年のミネソタ州、ドウルースで開かれた大会でこれを「国際ロータリークラブ連合会」と改称した。この時のクラブ数は50、会員数は5,000名であった。初代の連合会長にはフィラデルフィアRCのグレン・ミードを、そしてポール・ハリスは名誉会長に推戴され、チェス・ペリーはその初代の事務総長に就任し、その後30年間在任し、ロータリーの発展につくしたのである。このようにロータリーの組織面の発展について彼の残した功績ははかり知れないものがある。

非英語国に発展

国際ロータリーの組織の発展と平行して、全世界にロータリー・クラブを創設する動きが着々と進行し、1916年に初めて非英語国であるキューバのハバナRCが出来てからは、世界の各地に続々とロータリー・クラブが創立され、1917年には全世界のクラブ数は300に達し、1918年には南米ウルグアイにも誕生してクラブ数は400を越え、1919年には東洋最初のRCがフィリピンのマニラに創立されてクラブ数は500を突破した。1920年には日本最初の東京RCが誕生したのである。そし

て1921年にはクラブ数が1,000に達した。

このような国際的なロータリー運動の発展につれて、「国際ロータリークラブ連合会」の名称をもっと簡略にしようという動きが起り、1922年のロスアンゼルス大会で「国際ロータリー」 Rotary International という現在の名称になったのである。そしてこの大会で今日用いられている全世界共通の「標準ロータリー・クラブ定款」が採用され、これによって1922年6月6日以後に加盟を承認されたすべてのクラブは、この定款の遵守を義務づけられたのである。

世界大戦で多数のクラブが解散

其の後もロータリーは素晴らしい勢いで発展を続け、1925年にはクラブ数は2,000に達し、1926年にはクラブ数3,000、会員数15万人を突破するに到った。しかし1937年、ナチの命令によりドイツとダンチヒにおける43クラブが解散されたのをはじめ、1938年にはイタリア、オーストリアのクラブが解散、さらに1939年第二次世界大戦が起り、フランス、ベルギー、オランダ、ノルウェーおよび日本など、世界中で487クラブが解散命令を受け、16,700名の会員を失ったのである。

戦後の発展

1945年に第二次世界大戦が終了するとこれらのクラブが続々と復帰し、同年の終りまでにフランス、ベルギー、オランダ、ノルウェー及びフィリピン等から66クラブが再加盟した。1948年にはクラブ数7,000に達し、1949年に日本、韓国、ドイツ及びザールのロータリーが復帰したのである。戦後はR Iがロータリーの拡大を基本方針としたこと

もあって、ロータリーは世界中で爆発的發展をつづけ、1955年にはクラブ数8,776、会員数41万人を越えた。そして1970年には合計149の国及び地理的地域におけるロータリー・クラブ数は14,364、ロータリアンの数は679,500人となった。ロータリーはさらに躍進をつづけて1987年3月現在、全世界では161の国家および地域にロータリー運動がおよび、クラブ数22,839、会員数1,031,297人に達し、さらに大きな発展が期待されている。もってロータリー組織の発展のめざましさがわかるというものである。

IV 日本ロータリーの歩み

日本ロータリーの誕生とその成長

ロータリーの日本導入の主役が福島喜三次と米山梅吉であったことは伝えられている通りであるが、2人の持った役割については誤伝が多い。従って、ロータリーの日本導入に至る経過と、米山・福島の関係については、東京RCがRIのジョージ・ミーンズ事務総長から資料の提供をうけて従来の伝説を書き換え、1970年に発行した“東京ロータリー・クラブ50年のあゆみ”の記録に拠った。

1905年に、シカゴの青年弁護士ポール・ハリスによって立案されたロータリークラブは、それから十数年の後、すなわち1920年（大正9年）10月20日に、わが国最初のRCとして会長米山梅吉、幹事福島喜三次、会員数24名をもって東京RCが創立されたのである。国際ロータリーの順位は855で、フランスやメキシコより先に出来、メンバーは皆超一流の有資格者ばかりであった。その後、昭和15年までにわが国に37、それから当時日本の勢力下にあった朝鮮、満州、台湾に11、計48のRCが誕生し、会員総数2,142名を数えた。しかし日支事変が拡大、長期化するに及んでその筋からの干渉や圧迫がひどくなり、日本ロータリーはこれに耐えかねて次々と解散し、一時国際ロータリーを離脱するのをやむなきに至った。終戦後1949年（昭和24年）国際ロータリーに復帰するや、日本のロータリーは各都市に爆発的發展をみせ、今日米国に次ぐ世界第二位のロータリー国まで成長して、このたった24名の会員が現在（1987.3）クラブ数1,753、会員数101,434名に達している。このように日本ロータリーの素晴らしい発展には目を見張る

ものがある。

米山梅吉について

このロータリーの確固たる礎を築いた2人の功労者、即ち米山梅吉と福島喜三次両名の略歴を簡単に述べる。米山は慶応4年2月4日、東京芝田村町の武家屋敷で、大和国高取藩士、和田竹蔵の三男として生まれた。4才のとき父親が他界したため一家は伊豆の三島に引揚げた。母うたが伊豆三島神社の宮司日比谷氏の娘であったからである。小学校は長兄の栄次郎氏が助教師をしていた駿河国駿東郡長泉村の映電社に入学、その成績が抜群であったので、12才のときに代々名主を努めていた土地の旧家米山藤三郎に見こまれてその養子となり、和田梅吉は米山梅吉となったのである。14才のとき沼津中学に進み、16才のとき米山は青雲の志を抱き無断家出を執行して上京し、まず銀座の江南学校に草鞋を脱ぎ、間もなく芝の土井光華塾に移ったが、彼が後年三井銀行に入社することが出来たのは、この塾で知り合った親友藤田四郎のお蔭である。米山は昼は東京府に勤めに出、夜は福音英語学校に通って渡米の準備を始め、19才のとき東京英和学校（青山学院の前身）に入学して、同時に米人コールバックについて英会話を勉強した。

東京英和学校で本多康一先生からキリスト教的教育を受けたことは、梅吉少年の将来に大きな影響を与えた。一方、養家の藤三郎は、彼が無断で上京したなど問題はあったが、兎も角彼の渡米の志を納得し、明治20年急ぎ米山家へ養嗣子として入籍手続きをとり、彼は晴れて親や兄弟の了解の下にアメリカに渡り、オハイオ州のウエスレアン大学

に入学、その後ニューヨークのロチェスター大学に転じ、学資を稼ぎながら勉強して卒業、8年間の留学を終えて明治28年日本に帰った米山は、翌29年米山はると結婚、明治30年旧友藤田四郎の岳父井上馨侯爵の肝煎で三井銀行に入社、爾来トントン拍子に昇進したのである。

福島喜三次^{キソジ}について

一方、米山梅吉とともに日本に初めてロータリーを導入した福島喜三次は、明治14年佐賀県有田町に生まれ、東京高商を首席で卒業すると直ちに三井物産に入社、門司支店長を振り出しに、ニューヨーク、オクラホマ、ヒューストン等を経てグラスに赴任。このグラス支店長のときグラスRCのメンバーとなったが、人種差別の激しい南部グラスで若年36歳でロータリアンに推薦されておることは、地域からの信用と米国人達に通ずる英語が達者であったからである。従って福島喜三次は日本人として最初のロータリアンである。大正7年(1918)の正月、たまたま目賀田男爵を団長とする日本の財政問題調査団の一員として渡米中の米山が、自分と同じ系列の三井物産グラス支店長の福島を訪ねた折、ロータリー歴数ヶ月の新人会員であった福島との間にロータリーが話題に上ったことは想像される。しかしこれがそのまま日本ロータリーの設立に結びつくものではなかったが、此処で2人が知っ合ったことは日本ロータリーの誕生に重大な意味を持つのである。

ロータリーの日本導入

大正8年(1919)東京本社に転勤することになった福島に対して、グラスRCのリチャード会長は日本にもロータリー運動を始めたらと

勧め、「福島が日本にロータリー設立の希望を持っているから然るべくご配慮を願いたい」という書翰を地区ガバナーに出した。この手紙は地区ガバナーのR・E・ヴインソンによってそのままシカゴに転送されている。福島が帰国したのは1920年の1月である。この年の2月28日付で国際ロータリーの本部から、6月末までに日本にロータリーを作るようにとの特別代表任命書が福島に届けられた。しかし当時若輩であった福島に、ロータリークラブを日本に作ることは無理であった。

そこで福島はグラスで知り合った米山に相談し、ロータリークラブ創立の準備に取りかかったが、当時日本にはロータリー運動に対する関心が全くなく、6月末までの期限が切れてしまった。そこで期限の延長を国際ロータリーに申し入れたところ、福島宛に条件付きで申入れを承認する委任状が届き、福島の他パシフィック・メール汽船会社横浜支店長のジョンストンをクラブ創立の共同特別代表に任命する旨を通知してきた。

東京RC誕生

このようにして米山は会員集め、ジョンストンはRIとの交渉、福島は細かいこと、というトロイカ方式でやっとその年の9月1日に東京RCの創立委員会を、10月20日には下記24名のチャーター・メンバーで創立総会を銀行クラブで開いたのである。

会 長 米 山 梅 吉 (三井銀行取締役)
理 事 伊 藤 米次郎 (日本郵船社長)
樺 山 愛 輔 (日本製鋼社長)
小 野 英次郎 (日本興業銀行副頭取)

幹事 福島喜三次 (三井物産支配人)
 会員 深井英五 (日本銀行理事)
 藤野正年 (日本染色取締役)
 藤田 讓 (明治生命専務)
 藤原俊雄 (内外興業社長)
 堀越善重郎 (堀越商会主)
 星 一 (星製菓社長)
 井上敬治郎 (東京市電気局長)
 磯村豊太郎 (北海道炭鉱汽船社長)
 岩井重太郎 (日興証券社長)
 梶原仲治 (横浜正金銀行副頭取)
 岸敬治郎 (芝浦製作所取締役)
 北島 亘 (北島商会主)
 倉知誠夫 (三越常務)
 牧田 環 (三井鉱業常務)
 長野宇平治 (建築士)
 佐野善作 (東京商科大学学長)
 清水釘吉 (清水組代表社員)
 津島健之助 (東京日々新聞取締役)
 和田豊治 (富士紡社長)
 註：朝吹常吉 (千代田組顧問)
 宮岡恒次郎 (弁護士)
 相馬半治 (明治製糖社長)
 田原 豊 (三菱製紙社長)

4名は1921年7月
 理事会でチャータ
 ーメンバーに追
 加された。

このようにメンバーは皆超一流の錚々たる人達ばかりであったが、これを見ても分かるように、ロータリーは日本に於いては多少の例外を除いては一様に財界のトップクラスの人々の間に根をおろしたのであり、この傾向は戦前の各クラブに共通している。このように最初ロータリーは量より質を重視した、つまりエリート意識の強い実業界のリーダー達によって受入れられたのである。東京RCが誕生した1920年は、第一次大戦後の大不況が日本を襲った頃であり、この困難な時代に東京クラブが10月創立まで漕ぎつけたことは全く米山梅吉のロータリーに対する情熱と、当時の財界人の彼に対する信頼の度の高かったことを示すものである。RIの加盟承認は翌大正10年(1921)4月1日付で登録番号は855。当時のRI会長はエステス・スネデカー、幹事はチェス・ベリーである。東京RCが10月に創立総会を行いながら、加盟承認が翌年の4月になっていることは、当時郵便が汽車と汽船によって運ばれていたからであろう。1984年1月30日創立された福島西RCは創立と同日付で認証されており、今昔の感に堪えない。

以上のように、ロータリーが日本に誕生するについては、米山の受入れの決意もさることながら、もし福島という人物が居なかったら、日本への導入はズツと遅れていたであろう。と考えると、確かに福島喜三次は米山梅吉とともに、日本ロータリーにとって偉大な存在であったと言わねばならない。

大阪RC誕生

東京RCの初代幹事福島はわずか2回例会に出ただけで大正10年に大阪に転勤になった。福島は今度は大阪で星野行則とロータリークラ

ブ設立の準備にとりかかり、大正11年11月17日に25名のチャーター・メンバーで創立総会を開くことに成功し、会長星野行則、副会長は村田省蔵、幹事福島喜三次の大阪RCがわが国第2番目のクラブとして誕生した。登録番号1349号、日付は1923年2月10日である。会費は入会金20円、会費年額40円、例会費は最初月2回のときは40円であったが、8月から毎週例会を開くことになって100円に値上げされている。大正12年頃のこの金額を現在の貨幣価値に換算するとどの位なのでしょう。ちなみに当時の物価を調べてみると巡査の初任給45円、家賃約10円、白米10kg 3円04銭、清酒1.8リットル 1円20銭～1円70銭であった。

関東大震災によりロータリーを理解する

東京ロータリークラブは初めは活動が極めて低調で、会員は定款、細則などに対する関心がうすく、例会は毎月1回第2水曜日に開かれていたが、これすらも流れることがあり、出席率は悪く、奉仕活動などもほとんど行わずクラブの存続も危ぶまれるほどであった。ところが大正12年の関東大震災が起り、この時の国際ロータリーの活動によって、会員はロータリー運動の何たるかを初めて知らされたのである。すなわち大震災の報が外国に伝わるや、RI事務総長チエイスレイ・ペリーからは直ちに電報で、救済基金として25,000ドルの送金を行い、また世界中の503のRCからは総額14,944円82銭の見舞金が到着し、ここに東京及び大阪のRC会員は社会奉仕および国際奉仕の何たるかを身をもって理解し、これからロータリーについて勉強もし、実践活動に移ったというのである。

無地区から第70地区設立

このように関東大震災を契機として日本ロータリー運動は本格的になっていった。そして大正13年8月に神戸、同年12月に名古屋、14年9月に京都、さらに昭和2年6月に横浜RCが誕生し、これで6大都市全部にロータリークラブが出来たのである。大正9年東京RCが誕生してから昭和3年迄は一つの区を形成するにはクラブ数が少ないため、所謂 Non District Territory でガバナーではなく、各クラブは直接RI本部に直結していた。その代りスペシャル・コミショナーと言うものがガバナーの役目を果していた。このコミショナーには初代米山梅吉、2代井坂孝、3代平生鈺三郎が本部から任命された。昭和3年(1928)7月、第70地区の設立が認可され、米山梅吉が初代ガバナーに任命された。6クラブの他に、昭和2年8月朝鮮の京城に、昭和3年12月満州の大連に、さらに翌年3月奉天に、昭和5年4月ハルビンに、そして昭和6年3月台湾の台北RCが結成され、これら朝鮮、満州、台湾の5クラブが加わって第70地区は11クラブとなった。その後ロータリーが拡大するにつれて地区は次のように分割された。

1920～1928	全 国	無地区
1928～1939	全 国 1 区	第70区
1939～1940	東 日 本	第70区
	西日本、台湾	第71区
	朝 鮮、満 州	第72区
1940～1949	国際ロータリー	脱退

昭和4年4月27～28日、第1回地区年次大会が京都の華頂会館で開

かれた。第2回年次大会は昭和5年5月10～11日、神戸商工会議所で開かれ、奉天クラブから次のことが提案された。

1. 日本語のロータリーソングをつくること
2. ロータリー奨学金制度を設けること
3. ガバナー事務所から紀要を発行すること

「ガバナー月信」発刊

昭和6年(1931)5月9～10日、第3回地区年次大会が横浜市の開港記念会館で開かれ、井坂孝が選ばれて2代目のガバナーが誕生した。この年はじめて「ガバナー月信」が出された。そしてロータリーの活動は6つの綱領の達成に限るべきで、徒らに慈善や寄付金集めに走り過ぎぬよう、また会員の素質の向上と新クラブの設立等が議題となっているが、超一流のメンバーを揃えた当時のロータリーで、素質の向上が議題となっていることには驚ろかざるを得ない。当時RCに対する見方は一様でなかったが、英国でもバーナード・ショーは「ロータリーよいずこへ、昼食へ」と言ったと伝えられており、わが国でも有閑紳士達が集まって、昼飯を食う特権階級のクラブだ、という批判さえあったというが、こうした批判は現在でも皆無と言い切れない。

日本ロータリーの拡大と創立順位

昭和7年2月広島RC、12月札幌RCが誕生した。昭和8年(1933)になると、ロータリーの拡大と会員層の若返りが一部の指導者の間で重大問題となり、地区会で若い有望人の入会が要望され、現在はそれ程でなくても将来財力と指導力と奉仕とに優れた者となる見通しのあ

る若者を多数入会させるという考え方が強く前面に出てきた。そしてロータリー拡大運動が進み、解散直前の昭和15年までに合計48のクラブが各地に設立された。戦前における日本ロータリーの創立順位は次の通りである。

順位	クラブ名	創立年月	順位	クラブ名	創立年月
1	東京	大. 9・10	17	岐阜	昭. 10・4
2	大阪	大. 11・11	18	金沢	昭. 10・4
3	神戸	大. 13・8	19	徳島	昭. 10・5
4	名古屋	大. 13・12	20	静岡	昭. 10・9
5	京都	大. 14・10	21	四日市	昭. 10・12
6	横浜	昭. 2・6	22	浜松	昭. 11・2
	(京城)	昭. 2・8	23	郡山	昭. 11・5
	(大連)	昭. 3・12	24	長崎	昭. 11・11
	(奉天)	昭. 4・3	25	室蘭	昭. 11・11
	(ハルピン)	昭. 5・4	26	釧路	昭. 11・12
	(台北)	昭. 6・3	27	仙台	昭. 12・4
7	広島	昭. 7・2	28	和歌山	昭. 12・5
8	札幌	昭. 7・12		(キールン)	昭. 12・5
9	福岡	昭. 8・3	29	西宮	昭. 12・5
10	小樽	昭. 8・12	30	松山	昭. 12・6
11	岡山	昭. 9・3		(平壤)	昭. 12・
	(高雄)	昭. 9・3	31	高松	昭. 12・7
12	門司	昭. 9・3	32	高知	昭. 12・10
13	函館	昭. 9・9	33	北見	昭. 12・10
14	今治	昭. 9・10		(大邱)	昭. 13・
15	旭川	昭. 9・10	34	盛岡	昭. 14・2
	(新京)	昭. 9・10	35	熊本	昭. 14・3
	(釜山)	昭. 10・	36	新潟	昭. 15・4
16	帯広	昭. 10・2	37	宇和島	昭. 15・6

これを見てもわかる通り、戦前の日本のロータリーは朝鮮、満州、

台湾を含んでおり、約4分の1は内地以外の地にあった。これが次に来る日満ロータリー連合会発想の源をなしている。

ロータリーの日本化の動きと日本語のロータリーソング

昭和10年5月、第7回地区年次大会が京都で開かれ、次のことが提案された。

1. 紀元2,600年を期して国際大会を日本で開かれたい。
2. 国際ロータリーの中央集権を緩和して、地区分権制に改めること。
3. アメリカのロータリークラブに於ける東洋人差別待遇問題。

これに対して米山梅吉PGは、現在ロータリーの大勢もややその方向に動いているので、暫く静観しようではないかということで一先ず決着した。また昭和5年第2回年次大会のとき、奉天クラブから「日本語のロータリーソングをつくること」という提案がなされていたが、この大会で新作の日本語のロータリーソングが次の通り発表された。

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 旅は道づれ世はなさけ | 作詞 杉村 廣太郎 |
| | 作曲 吉住 小三郎 |
| 2. 奉仕の理想 | 作詞 前田 和一郎 |
| | 作曲 萩原 英一 |
| 3. 平和を人の世に植え | 作詞 田崎 慎治 |
| | 作曲 早川彌左衛門 |
| 4. 我等の生業 | 作詞 高野 辰之 |
| | 作曲 岡野 貞一 |

現在日本の代表的ロータリーソングとして歌われている「奉仕の理

想”について、「御国に捧げん我等の生業」という歌詞がしばしば話題になる。作詞者前田氏は京都RCの古い会員であり、「くおん」とか「なりわい」はむずかしすぎると田辺会長から叱られたが、当時の「富国強兵」の線に添うような着物を着せた。それから戦時色濃厚となってきたので「御国に捧げん我等のなりわい」はどここのクラブでも好評であった。しかし戦後、今や日本は平和国家となったのであるから「世界に捧げん我等のなりわい」と訂正したい、と述べたという。前田氏は戦後退会され、その後病床に伏されていたが、ハワイ国際大会に参加した日本人数千名が「奉仕の理想」の大合唱を行ったと聞いて感涙に咽んだということである。

大連クラブのロータリー宣言

昭和11年(1936)神戸で行われた地区大会で、ロータリーの綱領も日本風な表現をとるべきだとの主張がなされ、神戸クラブの直木太一郎が次のような大連クラブのロータリー宣言を、大会宣言として採択せよとの動議を提出した。

- 第1 須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因って世を益せんがためなり。故に吾人は道義を無視して所謂事業の成功を獲んとする者に与せず。
- 第2 成否を日々に先立ち退いて義務を尽さん事を思い進んで奉仕を完うせんことを念う。自らを利するに先立ちて他を益せんことを願う。最も能く奉仕する者最も多く満たさるべきことを吾人は疑わず。
- 第3 或は特殊の関係を以て機会を壟断し、或は世人の潔しとせざるに乗じて巨利を博す。これ吾人の最も忌む所なり。吾人の精神に反

してその信条を紊るは利のために義を失うより甚だしきは無し。

第4 義を以て集り、信を以て結び、切磋し、琢磨し、相扶け相益す。

これ吾人団結の本旨なり。然れども党を以て厚くすることなく、他を以て拒むことなく、私を以て党する者にあらざるなり。

第5 徒爾なる角逐と鬭争とは世に行わるべからず、協力以て博愛平等の理想を実現せざるべからず、然り吾が同志はこの大義を世界に敷かむがために活躍す、吾がロータリーの崇高なる使命茲に在り。その存在の意義亦茲に存す。

これに対して議論は沸騰し、反対派は、ロータリーの綱領は正式の国際ロータリー大会の議決であるから、日本文による修正は出来ないとし、賛成派は、この宣言を英訳して国際ロータリーの綱領とするよう提案すべしと主張した。中間派が、これは綱領を修正するものではなく、その意味内容を補充説明するから大会宣言として採用してさしつかえないと主張するに及んで結論に達したというものである。この大連クラブの宣言は、ロータリー綱領を翻訳という方法によらないで日本風に表現したものであって、非常に優れたものである。

地方分権改革案

昭和13年(1938)の地区協議会は8月6日松本健次郎ガバナーの下に、比叡山延暦寺に於いて開催されたが、昼食は梅干しだけの文字通りの日の丸弁当であった。このとき東京クラブから「ロータリーは現在のような中央集権を改め、各国それぞれの国情、風俗、習慣などを尊重し、自治的に分権して進めることが、世界的浸透を得る道であるから、機構をそのように改組する案を次の国際大会へ提出する準備を

しなければならぬ。」という意見が出され、その改組案研究委員会ができた。

そして昭和14年(1939)6月、クリーブランド国際大会で第9号議案として、第70地区よりR・I・J・M案が提出された。Jは日本、Mは満州を表わしていたが、この案は立法委員会の席上、提案説明者の芝染太郎によって撤回された。その理由は、本案への賛成は南米諸国だけで、しかも彼等はこの案に便乗しようとしたので、下手をすれば国際ロータリーの根幹をゆるがす虞もあると感じられたので、アメリカ側理事の必ず善処するという約束を信じて、自ら撤回したのであった。

第70地区を3つに分割・連合会をつくることを黙認

やがて理事会は日本の希望を容れて、昭和14年度(1939)から第70地区を3つの地区に分割し(前述)、さらに連合会をつくることを黙認して自治地域の適用を許したのである。

第1 3地区の総括機関として日満ロータリー連合会を組織し、会長1名、ガバナー3名、前ガバナー3名、前会長1名の8名の委員を置く。

第2 会長は国際ロータリーの承認を要せず委員会がこれを選び、委員の任期は1年とする。

第3 会長選出は3地区連合会大会でこれを行う。

第4 ガバナー選挙は地区大会で行い、R・Iへ通告し、従来と同じく国際大会で選任する。

第5 ガバナーの任務は従来と変ることなし。

第6 R・Iへ送金する4ドル50セントは半額を連合会に残してその費用に充てる。

第7 以上を1939年7月から実施する。

というものであるが、これが戦後日本ロータリーが国際ロータリーに復帰するとき三ヶ条の条件をつけられる原因となった。かくて第70地区は3つに分かれ、新70地区は名古屋以東の20クラブ、71地区は西日本及び台湾の19クラブ、72地区は鮮満の8クラブとなり、日満連合会長には米山梅吉が就任。昭和15年(1940)第1回、日満ロータリー地区連合年次大会が横浜で開催されたが、やがて日本は国際ロータリーを脱退したので、横浜の大会が連合会としては最初で最後のものだった。

ついに国際ロータリー離脱

その頃にはその筋からの干渉や圧迫がだんだんひどくなり、各クラブの例会には憲兵や警察の特高係がしばしば列席を求め、卓話の内容をあらかじめ警察に届出なければならなくなった。このようにロータリーが白眼視された原因として考えられるのは、

- 1) R・Iの本部がアメリカにあり、その任命によるガバナーがクラブを管理していたこと。
- 2) ロータリー・インターナショナルが共産党の第三インター・ナショナルを連想させたこと。
- 3) 有閑紳士の昼食会と見られたこと。
- 4) ロータリー関係者の中で特権意識を見せる者のあったこと。
- 5) カトリック僧が書いた「フリーメーソンとロータリー」という

本の訳本が流布されたこと。

その多くは誤解によるものであったが、米山P Gの指導によって本腰を入れてきた日本ロータリーも、日支事変がこじれてきた昭和15年頃には、ロータリーの集会には憲兵隊がひそかに様子を見にき、「シカゴと連絡したり、外人をクラブ員にするような団体は許されない。」と宣告され、「こんな会をする者は非国民だ」と罵られ、軍部のロータリーに対する圧迫は益々烈しくなるにつれ、各クラブは悲憤の涙と共に解散を決意せざるを得なかった。ここに統制は全く乱れ、ついに日満ロータリー連合会も昭和15年9月4日の会合で国際ロータリーの離脱を決意した。昭和15年6月末調査では、3地区48R C、会員数2,142名、これが国際ロータリー脱退直前の日本のロータリーの実績であった。

主なクラブの解散状況は、静岡8月8日、大阪8月12日、岡山8月19日、京都8月21日、神戸、今治、帯広は9月5日、東京は9月11日午後1時40分、最後の閉会のゴングが鳴った。ロータリー精神をより強く、皇国日本に生かさん為に、日本ロータリーは21才の若さを以て潔く自決したのであった。しかし各クラブは1949年、国際ロータリーに復帰するまで夫々会名を変えて継続していた。即ち今治水曜午餐会、神戸木曜会、福岡清和会、京都水曜会、名古屋同心会、新潟火曜クラブ、西宮火曜会、帯広水曜会、岡山水曜会、大阪金曜会、小樽火曜クラブ、札幌職能クラブ、高松水曜会、東京水曜クラブ、横浜同人会、岐阜金曜会、郡山金曜クラブ、仙台火曜クラブ、盛岡木曜会であった。

国際ロータリー復帰とその条件

昭和20年（1945）3月、グアムのRCがRIに復帰したのが被占領地で復活した最初で、同年フランス、ベルギー、オランダ、ノルウェー、フィリピンにある66クラブが復活し、その後各国のクラブも続々と復帰した。それでわが国に於いても戦争が終わると直ぐ国際ロータリーへの復帰の希望がわきおこり、各地の各曜会が連絡をとってロータリー復帰協議会ができ、講話条約が締結されたら即時復帰できるよう準備をはじめた。昭和22年（1947）7月16日、第1回協議会が開かれたが、東京の柏原孫左衛門が各地を回って調べた結果、戦前のRCで現在も例会を続けているもの18クラブ、会員数1,050名であることが明らかになった。同年9月1日、RI中央アジア駐在員のジョージ・ミーンズが帰米の途次日本に立寄り、東京のロータリー復帰協議会を訪れ、小松隆会長の案内で東京水曜クラブの例会に出席し、9月2日神戸水曜会、9月3日大阪金曜会、更に午後には京都水曜会の絹川清と会ったのち、東京へ引き返し9月7日空路アメリカへ帰って行った。

昭和24年（1949）3月11日、何の前ぶれもなくミーンズ来朝、ようやく国際ロータリーへの復帰が可能となった旨を発表した。但し復帰の条件は次の3ヶ条であった。

1. 現在の各曜クラブと各曜会を解散すること。
2. 国際ロータリーの定款・細則を厳守すること。
3. 国際ロータリーへの義務を完全に履行すること。

なお、各クラブは直接国際ロータリーに直結するもので、戦前のように、日本のクラブだけで一つにかたまることのないよう注意がつけられていた。最近よく「日本的ロータリーを」という言葉を耳にする

が、この3ヶ条の厳守を条件としてRI復帰を認められた経緯を我々は銘記しなければならない。

かくて昭和24年（1949）3月23日、東京RCが再起し、小林雅一が会長となり、3月29日旧登録番号855で再登録された。このチャーターナイト伝達式には、吉田茂首相の祝辞と、G・H・Q総司令官マッカーサー元帥のステートメントがあり、東京クラブの名誉会員を受諾することを光栄に思うと書いてあった。

続いて京都4月5日、大阪、名古屋、神戸4月13日、福岡4月22日、札幌5月2日の順で復活したのであった。この7クラブで第60区を形成することになり、初代ガバナーは東京の平島知健が選ばれて国際協議会に出席した。

ロータリーの拡大と新ロータリーソングの発表

この第60地区ができてからの復活第1号は7月27日に登録された横浜クラブであるが、翌昭和25年7月、東京工業倶楽部で開かれた地区協議会には33クラブ100名を越える出席が記録されている。この昭和25年は日本ロータリー初まって以来の大拡張の年で、1年間に復活したクラブが7、新しいクラブが21で計28に達し、前年度の26の記録を破ったのである。戦前は20年という年月の間に、満州、朝鮮、台湾を包括してなおかつ50に満たなかったクラブ数が、僅か2年3ヶ月に54クラブという拡大をみたことは驚ろくべきことである。これは、戦前の会員がほとんど実業人であったが、戦後は更に医師、弁護士、教育家をはじめ、学者、技術者、僧侶、神官等、専門職業人も加わる者も多く、あらゆる職業から会員が選ばれるようになったからであり、ロー

タリークラブが、はじめて欧米的なわれわれの身近なクラブ制度になったことは戦後のロータリーの特色と言える。

昭和27年（1952）4月、大阪中之島公会堂で開催された年次大会で、星野ガバナーは「約束を守らないロータリアンや、人に迷惑をかけて恥じないロータリアンが有ってはならない。」と、日本ロータリーの浄化を叫んだ。余興と同時に新ロータリーソングが発表された。

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 手に手つないで | 作詞 矢野 一郎 |
| | 作曲 矢野 一郎 |
| 2. ロータリー賛歌 | 作詞 大林 芳郎 |
| | 作曲 津田 三郎 |
| 3. 今日も楽しく | 作詞 筒井 徳光 |
| | 作曲 田中 規矩士 |
| 4. 喜び分つ | 作詞 泰 孝治郎 |
| | 作曲 大中 富二 |

なお、もう少しだけの方がいいということで、翌年「どこで会ってもヤアと言おうよ」作詞・作曲矢野一郎ができた。

地区の分割と「ロータリーの友」発行

かねて要望していた地区分割についてR・Iから入電があり、石川、岐阜、三重の3県を含む東日本の38クラブを第60地区に残し、福井、滋賀、奈良、和歌山の4県を含む西日本の28クラブを第61地区として昭和27年（1952）7月1日から実施することに決定した。そこで地区年次大会を待たず、郵便投票でそれぞれのガバナーノミニーを選び、第60地区は東京の小林雅一、第61地区は京都の鳥養利三郎と決定した。

これがわが国の戦後に於ける地区分割の最初である。

東西2地区に分割されても、日本語を使うロータリアンの共通の情報をプールする場として、前年大阪の年次大会に於いて、ロータリーの機関誌発行が決定され、昭和28年（1953）1月から「ロータリーの友」が毎月発行されることになった。その後ロータリーがますます発展隆盛の一途をたどるにつれて、地区の分割が進み、現在は全国に28地区を数えるに至った。

東京国際大会開催（2回）

東京大会は昭和36年（1961）5月28日の前夜祭から6月1日までの5日間にわたり、東京クラブをホストに、東京都と横浜市の22クラブがコホストとなり、新装なった晴海の国際見本市センターで開催された。5月29日の第1本会議には、天皇、皇后両陛下がお出でになり、天皇陛下の「ロータリーの会員が創立以来奉仕と友愛とを目標として人種、宗教、国境を超えて友好を重ね国際理解を深めるうえに多大の寄与をしてきたことは喜びにたえません。」とお言葉があった。この大会の参加者は74カ国から2万3,366名を数え、これまでの国際大会の登録数をはるかに上回った新記録になった。すなわち日本の登録者数は1万6,011名であり、海外からの来客は7,355名であった。

昭和53年（1973）5月14日から5日間、世界のロータリアンは17年ぶりに再び東京に結集した。会場の代々木国立競技場と第1体育館は世界95カ国および地域から参じたロータリー史上空前といわれる4万155名の人波で埋まった。開会式のセレモニーのあとの余興番組はまこ

とに絢爛豪華、日本の伝統芸能を中心に「日本の四季」が上演され、満場の拍手がなりやまなかった。本会議では、デビス R I 会長は満場に向かい「全人類を結びつけるために奉仕せよ」と語りかけ、レヌフ新会長は「手をさし伸べよう」と新年度の抱負とテーマを高らかにうたいあげた。

日本から R I 会長（2人）

東ヶ崎潔は東京 RC の会員であり、1968-9年度の R I 会長である。従って彼は日本からの最初の R I 会長である。彼は米国において教育を受けたので、その英語力は抜群であり、その雄弁は聴く人々を魅了した。R I 会長として彼の掲げたターゲットは「参加し敢行しよう」である。彼は、あなたのクラブで、あなたの仕事を通じて、あなたの地域社会を建設する上において、あなたの国際的接触を通じて参加し、敢行しよう。と世界に呼びかけた。東ヶ崎会長年度の国際大会はハワイで行われ、参加者は1万4,453名、日本からは3,801名が参加し、アメリカ合衆国に次ぐ第2位であった。東ヶ崎会長はその挨拶の冒頭を日本語で述べ、またロータリーソング「奉仕の理想」が日本語で合唱された。

向笠広次は大分県中津 RC の会員であり、日本から2人目の、1982-3年度の R I 会長である。彼は九州・久留米市で生まれたが、軍医であった父の転居により中学は東京、旧制高校は山形、大学は九州帝大医学部といずれも優秀な成績で恵まれた学生時代を過ごした。向笠は国際的にも名を知られた精神科のドクターである。R I 会長として彼

の掲げたテーマは「人類はひとつ、世界中に友情の輪を広げよう」である。

日本ロータリーの戦後の発展

戦後、ロータリークラブが日本全国津々浦々にまで出来たことは目を見はらせるものがある。これは、1つには国際ロータリーの基本方針がロータリーの拡大に力点を置いたことであり、いま1つは、戦前の日本の社会におけるロータリアンが、地域社会に与えたロータリー運動の印象の強さであろう。

昭和24年（1949）3月 R I 復帰時のわが国のロータリーは、クラブ数7、会員数455名であったが、翌昭和25年（1950）の年度末には64クラブ、2,394名となった。10年後の昭和35年（1960）にはクラブ数445、会員数18,619名となり、さらに10年後の昭和45年（1970）には、クラブ数は1,068を数え、会員数は52,950名に達した。ロータリーは其の後も益々発展を続け、昭和55年（1980）には1,541クラブ、会員数84,458名を数えるに至った。そして現在（1987. 3）わが国のロータリーは実にクラブ数1,753、会員数は遂に10万の大台を突破して101,434人に達している。

ロータリー運動とは

このようにわが国がアメリカに次いで世界第2位のロータリー運動の盛んな国になるとマイナスの面も出てくる。すなわち会員の増加に伴って起こる質か量かの問題、或はロータリー運動の輝かしさからくる名誉と信用だけを欲しがる者が現われたりして、我々は輝かしいロ

ロータリーの伝統を担う努力と勉強に欠けはしないかという問題もある。こういった遺憾な事実直面して一番重要なことは、一体ロータリー運動とは何か、ということを理解することである。単にロータリーに属しているということだけでは何らの価値もなく、また会員になったということは、如何なる意味に於いてもその人にエリートとしてのレッテルを貼るものではない。ロータリアンはあくまで自分の職業に誇りを持ち、自分の職業を通じて地域社会に奉仕するという基本的態度をとりながらも、本質的にはロータリー運動というものが国境を越え、人種を越えて人間を人間として結びつけ扶け合うようにさせるものであることを銘記すべきである。

すなわちロータリーは人生の価値を他人への奉仕に置き、そこに生き甲斐を感じるといふ信念を人の心の中に植えつけ、育て上げて、これを世界中に及ぼして行こうというものである。ロータリアンの育成というスライドを見ても、先づ第1段階は質のよい原石を探し出すことであって、それを磨き上げてダイヤモンドにする方法が説かれているのであり、質と量は車の両輪である。

わが国が今年3月現在持っている1,753というクラブ数や、101,434名という会員数は相当なものであり、この日本のロータリーが益々発展するためには、個々のロータリアンの心の中にロータリー精神を拡充せしめ、旺盛なロータリー活動を行うことであることを強調して稿を終る。

第253地区ロータリークラブ創立順位

順位	クラブ名	創立年月	順位	クラブ名	創立年月
1	郡山	昭和11・5	30	相馬	昭和39・4
2	山形	25・6	31	保原	40・5
3	福島	26・1	32	本宮	40・9
4	会津若松	27・7	33	猪苗代	41・2
5	いわき平	28・6	34	白鷹	41・5
6	喜多方	31・7	35	鶴岡西	41・5
7	上山	32・6	36	東根	41・10
8	山形西	32・12	37	尾花沢	41・11
9	天童	33・3	38	会津坂下	42・2
10	飯坂	33・5	39	高畠	42・2
11	白河	33・6	40	いわき平東	42・3
12	米沢	33・6	41	郡山西	42・4
13	村山	34・3	42	大江	42・6
14	鶴岡	34・6	43	酒田東	42・9
15	寒河江	34・9	44	田島	42・11
16	酒田	34・9	45	山形北	43・3
17	新庄	34・9	46	遊佐	44・10
18	いわき小名浜	36・4	47	浪江	45・1
19	いわき勿来	36・12	48	会津若松南	45・2
20	二本松	36・12	49	山辺	45・2
21	長井	37・6	50	郡山東	45・4
22	会津若松西	37・6	51	余目	45・4
23	いわき内郷	37・12	52	温海	45・5
24	福島北	38・2	53	富岡	45・5
25	須賀川	38・3	54	最上	45・6
26	米沢西	38・6	55	三春	45・11
27	いわき常磐	38・9	56	福島南	46・3
28	原町	38・9	57	郡山南	46・5
29	南陽	38・10	58	八幡	46・11

順位	クラブ名	創立年月	順位	クラブ名	創立年月
59	山形南	昭和47・2	74	川俣	55・5
60	朝日	48・5	75	小高	55・6
61	小国	48・9	76	中山	56・4
62	大越	49・1	77	福島西	59・1
63	常葉	49・2	78	石川	59・4
64	滝根	49・7	79	小野	59・4
65	いわき四倉	49・10	80	矢吹	59・6
66	郡山北	49・12	81	天童東	60・3
67	船引	50・1	82	会津若松城南	60・4
68	福島東	50・1	83	河北	60・6
69	東白川	50・3	84	白河西	61・4
70	梁川	50・4	85	郡山安積	61・6
71	立川	50・6	86	須賀川南	61・11
72	相馬東	52・4	87	米沢中央	62・6
73	郡山西北	52・6			

引用文献

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1) ロータリーの友 | ロータリーの友事務所 |
| 2) ロータリー日本五十年史 | 50年史編集委員会 |
| 3) 戦前の日本ロータリー | 直木 太一郎 |
| 4) わたしのロータリー・50年 | 直木 太一郎 |
| 5) ロータリー日本伝来のルーツとその後の経過 | 平島 健次郎 |
| 6) ロータリーにおける歴史の重要性 | 平島 健次郎 |
| 7) ロータリー入門 | 平島 健次郎 |
| 8) ロータリークラブ改訂版 | 小堀 憲助 |
| 9) ロータリー発生史 | 小堀 憲助 |
| 10) ロータリーの初心をたずねて | 小堀 憲助 |
| 11) 米山梅吉と日本のロータリー | 長井 盛至 |
| 12) 私の観たロータリー | 武藤 博 |
| 13) Golden Strand | Oren Arnold |
| 14) 東京ロータリークラブ50年のあゆみ | 東京ロータリークラブ |
| 15) ロータリー通解 | 田無ロータリークラブ |
| 16) ロータリーとは何か | 早坂 源四郎 |
| 17) ロータリー進化論 | 前原 勝樹 |
| 18) ロータリー入門書 | 前原 勝樹 |
| 19) ロータリー日本六十年史 | ロータリー日本史委員会 |
| 20) ロータリー談議 | 国際ロータリー第253地区 |
| 21) 日本ロータリーの歩み | 佐藤 信・長谷川利雄 |
| 22) ロータリーの世界 | 国際ロータリー |
| 23) 奉仕の冒険(ロータリーの行進) | 国際ロータリー |
| 24) 資料目録 | ロータリー文庫 |

あ と が き

我々がロータリーを真に理解するためには、その歴史、すなわち4つのW、何時、何処で、誰が、何をしたか(When、Where、Who、What)を顧りみる必要があります。恩師パストガバナー大原嘗一郎先生から、ロータリー精神とは「ギブ・アンド・ティク」ではなく、「ギブ・アンド・ギブ」で、自分が持っているものを惜しむことなく他の人達に与えることにある。と教えられました。よって浅学非才ですが一生懸命、いくらかでも新会員のために役立つことがあればと、この小冊子を編集しましたが、紙数の関係と、ロータリーに関する知識の乏しさから不備の点多々ある事と存じます。

皆様のお役に立てば幸甚です。

昭和62年7月

佐 藤 侑

佐 藤 侑 略 歴

昭和20年 東京帝国大学伝染病研究所入所
昭和26年 大原総合病院附属大原研究所勤務
昭和48年 医学博士学位修得(東北大学)
現 在 大原総合病院附属大原研究所副所長

昭和51年 福島南 RC 入会
昭和54年 ポール・ハリス フェロー
昭和58年 福島南 RC 会長
昭和59年～現在 第253地区ロータリーアクト委員長

新会員のためのロータリーの歴史

昭和62年7月1日発行

編 者 佐 藤 侑

960-11 福島市平石字堰ノ上2

(福島南ロータリークラブ)

印刷所 (株)阿部紙工 福島市南町345